

中学校第3学年 国語科学習指導案

単元名：『添削ガイド』をつくろうー「すいかは幾つ必要？」ー

指導者：尾道市立栗原中学校 関根 紗絵

- 日 時 平成30年7月10日（火）
- 学年・学級 第3学年1組
- 単元名 『添削ガイド』をつくろうー「すいかは幾つ必要？」ー

1 単元観

本単元は、中学校学習指導要領（平成20年）国語の第3学年「B 書くこと」の指導事項「ウ 書いた文章を読み返し、文章全体を整えること」を受け、「整っていない文や複雑な構造の文を、適切な照応にして読みやすい文に組み立て直す力」を育成することをねらいとして設定した。

「整っていない文や複雑な構造の文を、適切な照応にして読みやすい文に直す力」とは、国語科の学習にとどまることなく、各教科や日常生活の中で、情報を正確に理解したり、自分の考えなどを表現したりするための基礎となる力の一つである。

学習材として、「すいかは幾つ必要？」及び実生活に見られる「整っていない文や複雑な文」を用いる。それらの文のどこに問題があるか考え、適切な照応に直す活動を通して、読みやすい文に組み立て直す力を付ける。実生活に見られる課題を克服することにより、この力の有用性を感じることができ、「整っていない文や複雑な文を適切な照応で読むこと」の定着にもつながると考えられる。

2 生徒観

平成30年度全国学力・学習状況調査のA問題の、「心を打たれた」を用いて主語を付けた短文を作る設問における正答率が、全国平均で22.3%と大変低い結果となった。本学年の生徒の結果にも同様の傾向が見られる。正答にならなかった解答のうち、「心を打たれた」という慣用句の使い方は間違っていないのに、主語を付けていないものが多数を占める。また、「〇〇が」を書けば主語になると形式的に覚えていたために、主語を書き忘れてしまった生徒も多くいると考えられる。

また、国立情報学研究所が実施した、基礎的読解力を測る「リーディングスキルテスト」を参考にしたものや、基本的な文法の問題をプレテストとして実施したところ、(表)のような結果となった。

(表)

	問題	ねじれを直す	2文にして主語を補う	文の曖昧さを説明する	複雑な文を正しく読む	主述の対応
第2学年	正答率	*60%	13.1%	11.5%	43.4%	*60%
第3学年	正答率	*70%	25.3%	18.0%	52.7%	*70%

*複数の設問によって構成されているため、概数で示している。

「2文にして主語を補う」問題で、平成30年度全国学力・学習状況調査と同様、主語を補えない生徒が3割以上いることと、曖昧な文のどこに問題があるのかを説明できない生徒が約8割に上ることが課題である。

さらに、事前アンケートを行ったところ、複雑な構造の読みにくい文を読むときに、「前後の文から予測する」生徒が約8割いることから、多少構造が分からなくても、前後の文を使って何とか読んでいくことが分かった。このことから、一文だけを提示されたときには予測することができず、正しく読むことができないと考えられる。

3 指導観

指導に当たっては、次の3点を工夫する。

1点目は、実生活において見られる課題を設定することである。学んだことが実際の生活で役に立つと実感させることで、他の場面でも使うようになると考えられるからである。まず、生活の中で見られるのは、整った文ばかりではないことや、それになかなか気付けない自分を知り、自分の読み方を疑う感覚を身に付けさせる。さらに、それらの整っていない文を適切に読んだり直したりする活動を通して、国語科の授業以外の場面でそのような文に出合ったときに学んだことを生かすようにさせたい。(工夫①)

2点目は、構造を把握する際に用いた方法に名前を付け、その方法を使っていることの自覚を促すことである。その文を読むために、自分がどんな方法を用いたのか、その方法のどこがよいと思って用いているのかを常に意識させることで、他の場面でも用いるようになるからである。さらに、その方法を説明し合ったり、振り返りに書いたりすることによって定着を促したい。(工夫②)

3点目は、メモを書き込むことの有効性を実感させることである。複雑で読みにくい文を読むときには、文を区切ったり、線をつないだりすることが思考の助けになる。事前アンケートから、メモをとることの有効性を実感していない生徒が7割以上いることが分かっている。複雑で読みにくい文を読むための工夫をグループ内で出し合う中で、メモを書き込むことの有効性を実感させ、他の文を読むときに生かすようにさせたい。(工夫③)

また、教材として教科書に加え、地域情報紙や旅行のパンフレット、他教科の教科書などから集めた、整っていない文や複雑な文を用いて、読みやすい文に組み立て直す活動を行う。さらに、その文の問題点や直し方を説明し合う活動を設定することで、文の構造を把握する力を高めることを意図している。

4 単元の目標・評価規準

(1) 単元の目標

- 整っていない文や読みにくい文の原因を考え、読みやすい文にしようとする。
【国語への関心・意欲・態度】
- 文を読み、文節の順序や照応に注意して、読みやすい文に添削する。 【書くことB(ウ)】
- 文の成分の順序や照応など、文の構造が適切かどうか判断し、説明する。

【伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項 第2学年イ(エ)】

※第2学年の指導事項を扱うのは、指導計画の作成と内容の取扱い1(1)に基づく弾力的な運用。

(2) 単元の評価規準

国語への関心・意欲・態度	書く能力	言語についての知識・理解・技能
整っていない文や読みにくい文の原因を考え、読みやすい文にしようとしている。	文を読み、文節の順序や照応に注意して、読みやすい文になるよう添削している。	文の成分の順序や照応など、文の構造が適切かどうか判断し、説明している。

5 単元を通した言語活動の特徴

単元を通した言語活動として、整っていない文や複雑で読みにくい文を、読みやすい文に直す方法を考えることを通して、『添削ガイド』を作成する」ことを設定する。高校入試を控え、早ければ3年後

には社会に出ていく中学3年生にとって、文を適切に読んだり、分かりやすい文を書いたりすることは重要なことである。それを単元の導入で意識させ、目的意識をもたせることで、さまざまな場面で目にする文を正しく読んだり直したりする学習活動の意味付けを行う。さらに、作成した「添削ガイド」を活用する場面を設定し、有用感を感じさせることで、国語科の学習以外の場面でも習得した知識を使用するようになることを考える。

6 指導と評価の計画

全4時間（本時は2／4）

時間	学習内容と主な学習活動	評 価				
		関	書	知	評価規準	評価方法
一次 整っていない文を直したり正しく読んだりすることの必要性を考える						
1	<p>○曖昧な文の原因を考え、直し方のアイデアを出し、他の曖昧な文を直すのにも生かす。</p> <p>①友達から送られてきたSNSのメッセージ例に見られる曖昧な部分を探す。</p> <p>②メッセージを適切に直し、直し方について交流する。</p> <p>③曖昧な文を直す方法に名前を付ける。</p> <p>④曖昧な文以外にも整っていない文（簡単に分かるもの）があることを知り、方法を考え、名前を付ける。 （①～④の学習活動を通して、整っていない文を直したり適切に読んだりするとき、手引きがあると便利であることを感じさせる。）</p> <p>⑤ねらいの提示 【ゴール】「添削ガイド」を作ろう ・自分が書いた文を見直したり、複雑な文や読みにくい文を直して読んだりするときに使おう。 （添削ガイドに必要な情報は何か、見通しをもたせる）</p> <p>⑥振り返り →「添削ガイド」を作るために必要な方法（スキル）の確認をさせる。</p> <p>手立て</p> <ul style="list-style-type: none"> ・整った文ばかりではないことを知り、間違いに気付く感覚を身に付ける。（工夫①） ・直す方法を複数考え、名前を付ける。（工夫②） 	○		◎	<ul style="list-style-type: none"> ・メッセージのどこが曖昧なのかを考え、直そうとしている。 ・曖昧になっている原因を判断し、直すアイデアを複数考えている。 	<p>ワークシート</p> <p>ワークシート</p>

時間	学習内容と主な学習活動	評 価				
		関	書	知	評価規準	評価方法
二次 「添削ガイド」を作成するために、さまざまな文の問題点と直し方を考える						
2 【本時】	<p>○添削ガイドを作るために、その他のさまざまな読みにくい文の特徴や原因を基に直し方を考える。</p> <p>①前時の内容を想起し、本時のねらいを理解する。</p> <p>②曖昧な文以外の読みづらい文や不適切な照応の文などの直し方や工夫の仕方をグループで考える。</p> <p>③グループの考えを他の人に説明する。</p> <p>④振り返りをする。</p> <p>→直すときの重要なポイントや、直すのに困難さを感じた点などについて書く。</p> <p>手立て</p> <ul style="list-style-type: none"> ・問題点はどこかを考える。(工夫①) ・直し方を考え、名前を付ける。(工夫②) ・読みやすくしたり直したりするための工夫を考える。(工夫③) ・どう読んだか、直したかをグループの人に説明し、その内容を振り返りに書く。(工夫④) 	○		◎	<ul style="list-style-type: none"> ・さまざまな読みにくい文の読み方や直し方を考えようとしている。 ・読みにくい文の特徴や原因、直し方、そのための工夫点を考え、説明している。 	<p>行動観察</p> <p>ワークシート</p>
3	<p>○さまざまな読みにくい文の原因や直し方のグループ分けをする。</p> <p>①前時の内容を想起し、本時のねらいを理解する。</p> <p>②曖昧な文以外の読みづらい文や不適切な照応の文などの直し方や工夫の仕方をグループ分けする。</p> <p>③グループ分けしたものをラベリングする。</p> <p>④「添削ガイド」のレイアウトを考え、まとめる。</p> <p>⑤振り返りをする。</p> <p>→直し方や工夫の仕方の概要とその価値について考えたことを書く。</p> <p>手立て</p> <ul style="list-style-type: none"> ・問題点はどこかを考える。(工夫①) ・直し方を考え、グループ分けする。(工夫②) ・読みやすくしたり直したりするための工夫を考える。(工夫③) ・どう読んだか、直したかをグループの人に説明する、その内容を振り返りに書く。(工夫④) 	○		◎	<ul style="list-style-type: none"> ・さまざまな読みにくい文の原因や直し方ごとにグループ分けしようとしている。 ・読みにくい文の原因や直し方を根拠にグループ分けをしている。 	<p>ワークシート</p> <p>ワークシート</p>

時間	学習内容と主な学習活動	評価				
		関	書	知	評価規準 評価方法	
4	<p>○「添削ガイド」を作る過程で学んだことを用いて、PTA新聞の添削をする。</p> <p>①前時の内容を想起し、本時のねらいを理解する。</p> <p>②「添削ガイド」の確認</p> <p>③「添削ガイド」を使ってPTA新聞の添削をする。</p> <p>④添削結果をグループ内で交流する。</p> <p>⑤振り返りをする。 →作成した「添削ガイド」は、この他どのような場面で使えると思うかについて書く。</p> <p>手立て</p> <ul style="list-style-type: none"> 適切な文と、不適切な文を区別することを意識しながら読む。(工夫①) 添削ガイドを見ながら、整っていない文の問題点に合う直し方で直す。(工夫②) どこが問題点で、どの方法を使いどう直したかをグループの人に説明する。(工夫②) 適切に直せたという体験をさせることにより、その方法の有効性を実感させる。(工夫②) 「添削ガイド」を活用する場面を考えさせることで、有用性を実感させる。(工夫②) 	○			<p>・これまでの学習を生かし、さまざまな文を適切に直そうとしている。</p> <p>・読みにくい文の原因に応じた直し方を使い、さまざまな読みにくい文を適切な照応の文に直している。</p>	ワークシート ワークシート

7 本時の学習（第2時）

(1) 本時の目標（第2時）

- ・さまざまな読みにくい文の読み方や直し方を考えようとする。
- ・さまざまな読みにくい文の直し方を、特徴や原因を基に考え、それを他者に説明する。

(2) 観点別評価規準

- ・さまざまな読みにくい文の読み方や直し方を考えようとしている。【関心・意欲・態度】
- ・読みにくい文の特徴や読みにくい原因に基づいて、その直し方や直すための工夫点を考え、説明している。【伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項】

(3) 学習の展開（第2時／全4時間）

主な学習活動	指導上の留意事項（◇） ◆「努力を要する」状況と判断した生徒への指導の手立て	評価規準 (評価方法)
1 前時の復習とねらいの提示（10分間）		
(1) 前時の授業で考えた直し方と、本時のねらいを確認する。	◇「修飾する語に近付ける」など、各方法に生徒が付けた名前前で提示していく。	
【本時のねらい】 読みにくい文の特徴や原因を分析して、読みやすくする工夫を考える。		

2 各グループで、課題に取り組む。(30分間)

<p>(2) 自分の担当する課題の問題点を分析し、直し方を考える。</p> <p>・ 班ごとに所定の課題に取り組む。</p> <div style="border: 2px solid black; padding: 5px; text-align: center; width: fit-content; margin: 10px auto;">個人思考</div> <p>(3) 同じ課題に取り組んでいる人どうして集まって、意見交流をする。</p> <div style="border: 2px solid black; padding: 5px; text-align: center; width: fit-content; margin: 10px auto;">集団思考</div> <p>(4) 元のグループに戻って、それぞれ担当した課題について説明し合う。</p>	<p>◆直し方が分からない場合、問題点だけでも書くよう促す。</p> <p>【予想される、生徒が考える問題点】(A~Hは課題を示す)</p> <p>A:「ヤケド」が「変形する」となるからおかしい。 B:「北海道では」「占めます」の間に「何が」がない。 C:「雨は」と「土地になります」が合わない。 D:「すんでいる」「動物」はいいけれど「植物」はおかしい。 E:「ラフレッシュ」が場所のように思われてしまう。 F:「浮世絵は」と「使用していた」の関係がおかしい。 G:「スピッツとカナリヤ」に係る文節がない。 H:「知るには」と「推定します」の対応がおかしい。</p> <p>◇グループで自分の考えを伝え合い、一番良い直し方と説明の仕方を決めたら、自分のワークシートにメモをさせる。</p> <p>◆まず、担当した文をどのように解釈したかを他者に説明させる。</p> <p>◇お互いの担当課題について交流し、さまざまな直し方があることを知る。</p> <p>◆説明を聞きながら、説明者と同じようにワークシートに書き込ませる。</p>	<p>・ さまざまな読みにくい文の読み方や直し方を考えようとしている。(行動観察)</p> <p>・ 読みにくい文の特徴や読みにくい原因に基づいて、その直し方や直すための工夫点を考えている。(ワークシート)</p> <p>・ 担当した文の問題点と、それに合った直し方を説明することができている。(ワークシート)</p>
---	---	---

3 本時の振り返りと次時の予告(10分間)

<p>(5) 本時の振り返りを記入する。</p>	<p>◇直すときの重要なポイントや、直すのに困難さを感じた点などについて、振り返りカードに書かせる。</p>	
--------------------------	--	--

8 ワークシート

(表面：課題A)

3 年 組 番 氏名()

課題 A

※ここに文例が入ります。著作物を含むため様式のみ掲載します。

☆ 問題点はどこ？

☆ どう直す？

(裏面:共通)

第3学年国語「整っていない文」一覧

課題A

※ここに文例が入ります。著作物を含むため、様式のみ掲載します。(以降同様)

課題B

課題C

課題D

課題E

課題F

課題G

課題H